

## 「九州旅行」

2016年05月20日

今年の聖霊降臨日（ペンテコステ）は、宮崎県の延岡三ツ瀬教会（以下—三ツ瀬教会）の創立 80 周年記念礼拝の説教に招かれた。80 年の歴史の中で、私は 8 年間牧師の任に当たり、三ツ瀬教会を去って 37 年以上にもなるが、私を覚えて招いてくださり、嬉しく光栄に思った。亡くなられた方も大勢いるが、私の時代の方々も多く、懐かしく再会し、心を込めた歓迎を受け、嬉しい時を過ごした。

30 歳になったばかりの牧師で、手探り状態であった私を教会員たちは、牧師になるように支え励ましてくださった。三ツ瀬教会には 4 人の盲人、その他にも、身体的、精神的障がいを負った方々が大量おられた。その方々は主イエスを信じ、喜びながら堂々と生きておられ、本当に多くのことを教えられた。主イエスの福音、そして、牧師であることを、三ツ瀬教会で学んだと感謝している。

説教では、主イエスの十字架と復活は、あるがままの自分を無償、無条件で神は受け入れ、「よし」と宣言してくださる「生の絶対的肯定」の福音であると、私の体験を交えて話した。パウロが書いたコリント書（二）12 章 9 節の「弱さを誇る」という御言葉は、キリストの力は弱さの中に宿ると約束している。どんな状態であろうとも、キリストの力に与って歩み続けることができる。教会に降った聖霊は心と言葉を通い合わせ、新たな教会形成に向かわせてくださる。現在、地方の教会の伝道は困難で苦労は多いが、100 周年を目指し励んで欲しいと勧めた。

翌日、大分に立ち寄り、三ツ瀬教会の客員だった友人ご夫妻と 40 数年ぶりに会い、懐かしい会話が弾んだ。大分名産の「関アジ」をご馳走になった。豊後水道の激流で育ったアジは身が引きしまり、一本釣りのブランド魚だそうで美味しかった。

母教会の杵築教会を訪ね、納骨堂で恩師・吉新治夫牧師を追悼して祈りを捧げた。吉新牧師は私を信仰に導き、牧師への道を切り開いてくださった。どんなに感謝してもしきれない。吉新牧師の杵築教会に捧げ尽くした 55 年の信仰と生涯をまとめた遺稿集『イメージング・グレイス』が出版された。キリストに捧げ、人に与えた無欲な一生を全うされた吉新牧師の姿が感動的にまとめられている。

豊後はキリシタン大名・大友宗麟が支配した所で、禁制により殉教者も出した所でもある。バルタザル加賀山半左衛門が処刑され、4 歳の息子ディエゴも父の信仰に倣い、父をはねた同じ太刀で斬首されたという。父子を記念する「日出（ひじ）殉教公園」を訪ねた。日出の城跡の石垣の上から眺める別府湾は、天気も良かったが、絶景であった。

翌日、1 年前に亡くなった次兄宅を訪ねるため、博多に行った。義姉は愛情こまやかだった夫婦関係について、こまごまと話され、二人でよく行ったというレストランに連れて行ってくれた。夫婦が二人で歩いている姿を見ると「羨ましく思う」と、実感を込めて話していた。次男が体調を壊し、入院していたので病院に見舞った。

翌日、宝塚市の長兄宅を訪ねた。4 年ぶりの再会で、寄る年波で弱ってはいたが、昔話に花を咲かせ、楽しい時を持った。長兄は末子の私によく「隆雄は秋吉家の子どもではない。橋の下から拾ってきたのだ」と言っていた。その度に、母の膝で泣いた。今回、可愛そうなことを言って、済まなかったと詫びていた。

4 泊 5 日の強行軍の旅行であったが、記念礼拝説教をし、また、会いたかった懐かしい人に会え、見舞いもすることができた。